新たな長久手のために

長久手市議会議員
佐野尚人
議会活動報告

NAOTALK

喜婦嶽交差点東側道路に歩道を設置します

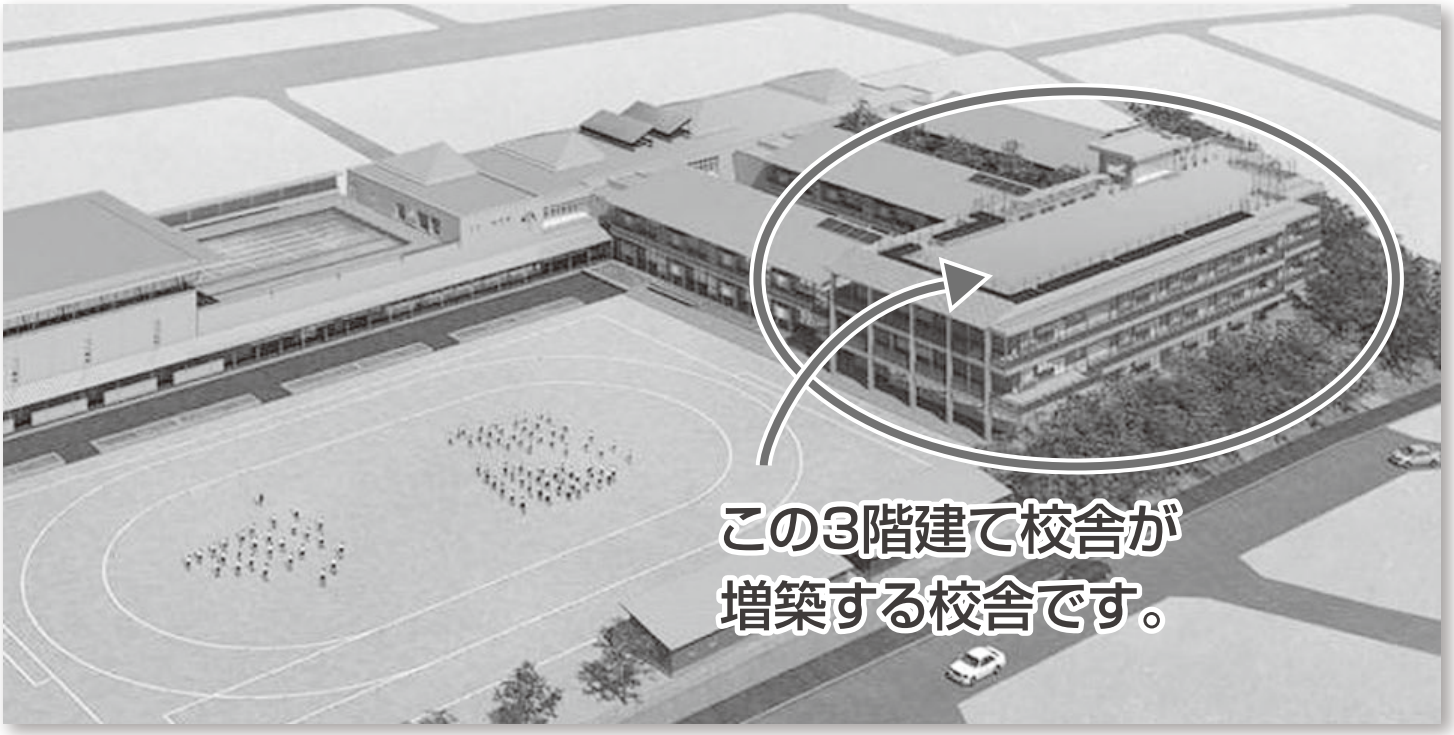
山野田地区や砂子地区の児童にとって長年にわたって危険とされ安全対策を要望してきた喜婦嶽交差点東側道路です。喜婦嶽交差点に集中する児童の分団数も多く、雨天時の登校はより危険な状況が続いていましたので、これまでに南小学校のPTA地区委員の皆さんに協力してもらい、分団を分散させるために、通学路を変更するなどの努力を重ねてきました。また南小学校区自治会連合会の地域要望においても最重点要望としてあげていただき、代表を務める行財政改革クラブの会派要望でも時間をかけて要望をしてきました。その結果、平成24年度内に喜婦嶽交差点東側道路に歩道が設置されることとなりました。今後とも南小学校児童の安全が図られるよう努めていきます。

新たな長久手のために

長久手市議会議員
佐野尚人
議会活動報告

NAOTALK

市が洞小学校増築工事の入札が2度も不調となる。5,000万円以上も予定価格を修正し、6億6,283万円となる!



市が洞小学校の増築計画は7月と8月に保護者と地域住民を対象に説明会が行われましたが、その中での意見として計画の事前周知がなされていないとのご意見が多くありました。また当初から地域の意見が集約されていないとの指摘をしてきた議会での所管の文教福祉委員会からも意見募集をするよう申し入れをしました。その後、10月に行われた意見募集では短期間の募集にもかかわらず47件もの意見が寄せられ、その9割が現在の増築計画に異を唱えるものでした。しかしながら担当課は現在の計画をこのまま進めるとの方針を変えず、12月議会に工事契約議案を上程するため、11月14日に入札を行いましたが、応札する業者がなく不調となりました。そして2回目となる入札を12月議会中の12日に行いましたが、またも応札がなく異例の2回目の不調となりました。結果12月議会には上程できず工事開始を延期せざるを得ない状況となりました。現在3回目の入札を行い、臨時議会を開いて上程する準備を進めています。2回も不調となったことから工事価格を見直した結果5,000万円以上も高くなり、予定価格は6億6,283万円となりました。校区を見直し、この増築費用の一部を隣接校の改修費用に充当する事ができれば一時的な無駄遣いとの批判も受けません。地域の住民の多くが計画の修正を望んでいます。

～佐野尚人の一般質問より～

9月議会では地域への理解が十分にされていない事を指摘

Q　佐野尚人：市が洞小学校の児童数増加に対して、当初はこれ以上市が洞小学校だけに負担をかけられないとして、学区の見直しを検討していた教育文化部と教育委員会であるが、現在は180度方向転換をした1300人規模のマンモス校となる増築を容認した結果となっている。この経緯として地域の意見はどのように集約しているのか?

A　教育文化部長：地域の意見については学区適正化委員会の中で、地元代表をされた委員のかたに意見を言っていただいた中で、地域の意見として発言をされたので、そのように受け止めている。

Q　佐野尚人：児童数の増加は一過性のものであり永久に増え続けるわけではない。しかしながらこの短期間で学区を行ったり来たりという児童の負担も理解できる。そのうえで学区見直しの提案として例えば西小学校から学区が変わった児童に対しては西小学校の改修を前提としてお願いしてはどうか?西小学校は空き教室も多く児童の受け入れは十分に可能な状況だが、校舎のほうも老朽化が目立っている。市が洞小の増築規模を縮小して、その財源を西小の改修に振り分けてはどうか?西小の改修も近い将来必要なことで前倒しをして検討してはどうか?

A　教育文化部長：そういう想定はしておらず、学区の変更は難しいと考えている。

12月議会では10月に保護者や地域から寄せられた意見は短期間にもかかわらず47件もあり、9割を超える意見が現行の増築計画に異を唱えていることを訴え、マンモス校化への懸念を指摘。

Q　佐野尚人：市が洞小学校の増築計画に対する意見募集で集まった47件の意見をどのように反映させるつもりか。また、反映させないのであればなぜ広く意見を頂いたのか。ここに出された意見は大局的な観点からの指摘がほとんどであり、また結果としてその9割が現行の増築に異を唱えている。入札も不調に終わったこともある。ここで一度落ち着いた議論をすべきではないのか。

A　教育文化部長：学区適正化委員会でも議論をしてもらった経緯があるので現行のままですすめていきたい。

Q　佐野尚人：在校生に対する分断の影響も大きいだろうが、長期的に見て過大化の影響のほうが大きいとの指摘もある。こうした意見が埋もれていた事をどのように捉えているか。前議会の答弁でも地域の意見は適正化委員会の中でも反映されているとしていたが、今回こうして増築計画そのものに異を唱える声が大きいという事は地域の意見が十分に反映されていたのか疑問である。

A　教育文化部長：小学校の保護者や自治会に対して意見を募集した。意見を出されなかった方も多くいる。そうしたかたは教育委員会の方針を概ね可としていると考えている。

市長に問う!
現在建設中の北中学校の敷地内にあった旧給食センターのくすのきを安易に切ってはならないとして、その工事を中断させ、シンポジウムを開催し理解を求め、結果190万円をかけて北中学校正門に移植した。一本の木にこだわり、立ち止まる事が大事とした吉田市長に対し、なぜ市長はこの増築も立ち止まれないのか言及しました。

Q　佐野尚人：市長は北中学校の建設では、一本のくすのきにこだわり工事を止めた。多くの児童がかかわるこの市が洞小増築工事にはこだわらないのか?児童の教育格差をつくらないように、平等に豊かな教育を受けられるように努め、一方では地域住民が異を唱える過剰な支出を抑制するためにも首長として一度立ち止まる事はできないのか。

A　市長：もう一度、教育委員会とも協議する

しかしながらその後の教育文化部の方針は変わっていません。
市が洞小学校の過大なマンモス化を回避し、市内のすべての児童がゆとりある学校生活が送れるよう大人が知恵を出し合い議論をすべきです。

発行者：佐野　尚人
〒480-1114愛知県長久手市長配1丁目707番地の2
☎ 0561-61-2085　✉ nagakute@sano.naoto.com
※この活動報告は、政務活動費の一部を使用しています。